

技術普及見込に関するヒアリング結果について

1. 燃費改善要因の評価

今後導入・普及が見込まれる燃費改善技術の燃費改善度について、小型貨物自動車の製造事業者等へのヒアリング（第1回合同会議他）結果をまとめた。

具体的には、エンジン改良、補機損失低減、駆動系改良等の現在及び将来（それぞれ2012年、2022年）における燃費改善率及び普及率を評価した。

その結果を表1に示す。

2. 燃費影響要因の評価

一般的に、排出ガス規制の強化対応によるエンジン熱効率の低下、安全規制の対応による重量増加等により、燃費は低下する傾向があるため、判断基準を作成するにあっては、このような燃費影響要因の有無についても検討する必要がある。

しかしながら、現時点においては、燃費に大きく影響を及ぼすような排出ガス規制や安全規制の強化は予定されていないため、今回の検討作業においては、燃費影響要因は考慮しないこととする。

ただし、今後国際調和された排出ガス・燃費値の測定方法であるWLTP（Worldwide harmonized Lightvehicles Test Procedures）が燃費測定方法として国内導入される際には、排出ガス規制の規制値、導入時期等を踏まえて、改めて検討することが望ましい。